

教育委員会定例会日程

平成21年12月17日

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 会議録署名委員の決定

4 議事

日程第1

議案第25号

平成22年度全国学力・学習状況調査への参加について（教育指導課）

5 報告事項

- (1) 市議会12月定例会の概要について（資料1 教育総務課）
- (2) 第11回城下町おだわらツデーマーチ開催結果について
(資料2-1 スポーツ課)
- (3) 小田原市立図書館コンクリート強度耐力度調査の結果について
(資料2-2 図書館)
- (4) 平成21年度西湘地区教育委員会連合会の視察研修について
(資料3 教育総務課)
- (5) 神奈川県市町村教育委員会連合会について（教育総務課）
- (6) 職務遂行に支障のある職員への対応の手引き（県費負担職員用）及び指導研修
修手続等に関する要綱について（資料4 学校教育課）
- (7) 和留沢地区自治会からの要望書について（資料5 学校教育課）
- (8) インフルエンザの学級閉鎖の状況について（資料6 学校教育課）

6 閉 会

議案第 25 号

平成 22 年度全国学力・学習状況調査への参加について

平成 22 年度全国学力・学習状況調査への参加について、議決を求める。

平成 21 年 12 月 17 日提出

小田原市教育委員会
教育長 前田 輝男

今後の本市における学力・学習状況の把握について

教育指導課

1 市の学力の把握について

	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
市小中学校学習実態調査	悉皆	悉皆	悉皆	悉皆			
県公立小中学校学習状況調査	抽出	抽出	抽出	抽出	悉皆	抽出	抽出
全国学力・学習状況調査					悉皆	悉皆	悉皆
調査結果の活かし方	<ul style="list-style-type: none"> ワクワク学習帳の作成・配布 小学校（国語・算数） ← 土曜講座おだわらっ子ワクワク学習教室 → 小学校（国語・算数・英語） 県公立小中学校学習状況調査結果のまとめ配布 → <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力・学習状況調査結果の分析と今後の指導について配布 ・小田原市の分析結果について配布 ・学校訪問による指導 学校教育に関する取組の重点・学校教育関係グランドデザインに反映 → 						

2 国・県の方針変更について

全国学力・学習状況調査

平成22年度以降
 ・全国40%の抽出調査と市町村教委単位の希望調査の併用
 → 学級単位で抽出 1校で2学級もあり得る
 個人票も来る
 今後、調査教科数を増やすことも検討される見通し

県公立小中学校学習状況調査

平成22年度
 ・小3 国算 ・小5 社理のみ ・中2 実施しない
 ・意識調査 → 検討中
 平成23年度
 ・小3 国算 ・小5 実施しない ・中2 社理英
 ※ 実施時期も、あり方検討委員会で検討中 のみ

3 それぞれの調査に参加した場合のメリット・デメリット

全国学力・学習状況調査

メリット
 ・平成19年度からの3年間のデータとの比較ができる。
 ・希望参加には無償で問題の提供がある。
 ・学習状況調査は詳細である。

デメリット
 ・抽出以外はすべて各市町村教委で採点(実際には各学校)・データ管理を行う。
 ・業者への委託もできるが、費用は市町村教委負担。契約も市町村対応。(業者委託の場合一人当たり2千数百円かかる見込み)

県公立小中学校学習状況調査

メリット
 ・全国調査にはない教科(社・理・英)の受検が可能。
 ・結果が出るのは3ヵ月後。全国より1ヶ月早い。
 ・より実態に即した把握が可能。

デメリット
 ・全て、採点・データ入力各学校で行う。
 ・実施しない学年・教科が出てきた。
 ・意識調査も、全国よりは簡易なものであり、生活面には踏み込んでいない。
 ・希望参加の場合は問題も自校印刷。

4 全国学力・学習状況調査等への参加に関するアンケート結果について

《教員編》

全国学力・学習状況調査

- 参加希望の学校 0校
- 意見が割れた学校(19校)の内訳
 希望する職員 26% 希望しない職員 74%
- 希望しない学校 18校

主な希望する理由

- 実態を継続的に把握し、授業改善や指導力向上に役立てる。
- より多くのデータで検証でき、全国の中の位置がわかる。
- 児童・生徒が真剣に取り組む経験となり、実力を知る良い機会となる。B問題などは刺激になる。

主な希望しない理由

- 3年間やって、費用・労力・時間をかけて実施した割には効果を感じられない。負担が大きく、多忙化につながる。
- 調査や事後指導、採点・分析にかかる時数を生み出すことが難しい。その時間を、他の指導や教材研究等に充てたい。
- 結果の開示に伴い、学校の序列化、他県・他市・他校との格差が目立され、無用の心配と不信感を招く恐れがある。
- 学力の実態は家庭環境や地域の実態も影響するのに、教師の指導力だけが問われ不公平さを感じる。
- 学力のとらえと内容が一面的であり、抽出調査で十分。

県公立小中学校学習状況調査

- 参加希望の学校 10校
- 意見が割れた学校(18校)の内訳
 希望する職員 31% 希望しない職員 69%
- 希望しない学校 9校

主な希望する理由

- 従来から、抽出校にならなくても校内印刷をして毎年参加しているので慣れていて採点もしやすい。
- 何らかの形で現在の学力・学習状況や過去からの推移を客観的に把握し、授業の工夫・改善に反映させたり、指導力を評価したりする必要がある。
- 実状に即し、独自の視点や考え方で詳しく調査でき、活用もしやすい。
- 児童・生徒のいろいろな体験の一つとし、意欲を高めたり家庭学習等を指導する一助にしたい。

主な希望しない理由

- 調査のための時数確保が難しい。採点、データ入力にも時間がかかる。その時間を、他の指導や教材研究等に充てたい。
- 児童・教師ともに負担が大きく、多忙化につながる。
- 結果を有効に活用できるとは思えない。

全国学力・学習状況調査

【次年度受検対象の学年、各校1学級を抽出して調査】

小学5年生保護者(514名)

希望する 78% 希望しない 22%

中学2年生保護者(312名)

希望する 75% 希望しない 25%

主な希望する理由

- ・ 自分の子どもの学力・学習状況の現状を把握したいから。
- ・ 自分子どもや、所属校、市全体、県全体が、全国的に見てどのレベル(位置)にあるのかを知りたいから。
- ・ 現在の絶対評価や◎○△の成績表では、子どもの学力が判断できないから。(小学校)
- ・ 子どもにとっても良い刺激・経験になり、自分の状況を明確にして課題意識をもち、学習に取り組んでいけるから。
- ・ 「ゆとり教育」の推進による学力低下が心配。現状を把握し、「ゆとり教育」を見直す対策をとるために必要。
- ・ 結果を指導 改善に活かしてほしいから。
- ・ 学校で、学力を客観的に把握する機会が他にないから。
- ・ 進路を考える上で参考になるから。(中学校)

主な希望しない理由

- ・ 結果が分かるのが遅い。個人に対するフィードバックがはっきりせず、参加しても意味がない。
- ・ 全国規模で調査する意義を感じないし本人の学力向上に大きく影響するとは思えない。県内での相対評価が重要。
- ・ 授業時間をつぶしてまで参加する価値はない。他に優先すべきことがある。普段の授業の充実を望む。
- ・ 地域・学校の序列化を助長するものであるから。
- ・ 本人が希望しないため。また、小学生には必要ない。

県公立小中学校学習状況調査

【次年度受検対象の学年、各校1学級を抽出して調査】

小学5年生保護者(514名)

希望する 77% 希望しない 23%

中学2年生保護者(312名)

希望する 79% 希望しない 21%

主な希望する理由

- ・ 子どもの学力・学習状況を把握したいから。(絶対評価は分かりにくい)
- ・ 子どもが自分の学力を把握し、意欲的に学習を進めるきっかけにしてほしいから。また、いろいろな経験をさせたいから。
- ・ 学校が県内でのレベルを把握し、指導の改善につなげてほしいから。
- ・ 受験・高校進学のための参考にしたいから。
- ・ 全国を受けないならば参加させてほしい。どちらか一方でも参加して学力を把握し、改善策を考えることが必要。

主な希望しない理由

- ・ 全国調査に参加を希望するから。県よりも全国規模での調査の方が、より客観的な把握ができるから。
- ・ 時間をかけて参加するより、普段の授業にもっと力を入れるべき。
- ・ 個人へのフィードバックがあまり感じられないので参加しても意味がない。

5 他市町の状況について

全国学力・学習状況調査

【11/20 現在 電話による聞き取り調査の結果 18市近隣10町】

次年度の参加予定

参加(13市町) 南足柄 横須賀 茅ヶ崎 相模原 秦野 大和 逗子 伊勢原 三浦 箱根 大井 松田 開成

不参加(7市町) 横浜 川崎 鎌倉 綾瀬 湯河原 大磯 二宮

未定(8市町) 厚木 平塚 藤沢 座間 海老名 中井 山北 真鶴

主な参加する理由

- ・ 一応参加にしている。あとは動向を見極めて教育委員会で決定する。
- ・ 幅広く調査したいから。
- ・ 今までも県に悉皆参加してきた。県が実施教科を国と合わせて考えているようなので参加する。
- ・ 学校へ調査したところ希望があったため

主な参加しない理由

- ・ 予算措置が必要なため。
- ・ 過去3年間で実態を把握できたため。
- ・ 学校にも負担がかかるため。

県公立小中学校学習状況調査

【11/20 現在 電話による聞き取り調査の結果 18市近隣10町】

次年度の悉皆による参加予定

参加(8市町) 南足柄 横須賀 逗子 三浦 箱根 中井 山北 二宮

不参加(15市町) 横浜 厚木 鎌倉 平塚 藤沢 茅ヶ崎 秦野 相模原 大和 座間 海老名 綾瀬 伊勢原 開成 大磯

未定(5市町) 川崎 真鶴 湯河原 大井 松田

※ こちらは、もともと悉皆参加が原則ではないので理由は聞いていない。

各市町の独自調査について

【11/20 現在 電話による聞き取り調査の結果 18市近隣10町】

独自調査を実施している自治体(5市町)

横浜 川崎 南足柄 箱根 真鶴 (厚木…検討中)

平成21年12月市議会定例会の概要について

第1日目	11月26日	木	・補正予算並びにその他議案一括上程——提案説明、 細部説明
第2日目	11月27日	金	(休 会) (議案関連質問通告) (一般質問通告)
第3日目	11月28日	(土)	(休 会)
第4日目	11月29日	(日)	(休 会)
第5日目	11月30日	月	(休 会)
第6日目	12月1日	火	・質疑、各常任委員会付託、陳情等付託
第7日目	12月2日	水	(休 会) 建設経済常任委員会
第8日目	12月3日	木	(休 会) 厚生文教常任委員会
第9日目	12月4日	金	(休 会) 総務常任委員会
第10日目	12月5日	(土)	(休 会)
第11日目	12月6日	(日)	(休 会)
第12日目	12月7日	月	(休 会)
第13日目	12月8日	火	(休 会)
第14日目	12月9日	水	(休 会) (委員長報告書検討日)
第15日目	12月10日	木	・各常任委員長審査結果報告・採決 ・陳情審査結果報告・採決 ・一般質問
第16日目	12月11日	金	・一般質問
第17日目	12月12日	(土)	(休 会)
第18日目	12月13日	(日)	(休 会)
第19日目	12月14日	月	・一般質問
第20日目	12月15日	火	・一般質問

厚生文教常任委員会（教育委員会関係）

平成21年12月3日開催

1 議 題

議案第94号 平成21年度小田原市一般会計補正予算（所管事項）

陳情第67号 小田原市立の図書館整備を検討するため市民を含めた委員会
設立に関する陳情書〔継続審査〕

陳情第68号 お城通り地区再開発事業用地内の図書館開設に関する陳情書
〔継続審査〕

陳情第74号 栄養教諭の配置促進を求める陳情〔採 択〕

2 所管事務調査

（1）報告事項

- ・ 第11回城下町おだわらツデーマーチ開催結果について
- ・ 市立図書館コンクリート強度耐力度調査の結果について

平成21年小田原市議会12月定例会

一般質問 12月10日～15日

質問順 2 1 番 鈴木美伸

- 1 学校教育について
 - (1) 教育長の教育理念について
 - (2) 全国学力・学習状況調査について
 - (3) 学校二学期制について
 - (4) 学校敷地内全面禁煙について

質問順 7 15 番 佐々木ナオミ

- 1 小中学校の教育現場でのニーズに合わせた支援について
 - (1) 特別支援チームの効果
 - (2) 個別支援員について
 - (3) 学級崩壊について

質問順 8 7 番 大村 学

- 1 教育長の教育方針について
 - (1) 基本理念を問う
 - (2) 生涯学習推進について
 - (3) 放課後児童クラブについて
 - (4) 税金の教育について
 - (5) 新学習指導要領について
 - (6) 武道の必修化について

質問順 11 6 番 安野裕子

- 1 事業仕分けに関して
 - (3) 施設管理運営事業の仕分け結果と見直しの方向性に関して

質問順 13 12 番 加藤仁司

- 1 本市の教育行政について
 - (1) 教育委員会の組織について
 - (2) 小田原市事業仕分け結果について
 - (3) 国の新政権誕生による教育政策等に関連して
 - ア 全国学力・学習状況調査について
 - イ 教員免許更新制度について
 - ウ 学校理事会について
 - エ 心のノートについて
 - (4) 青少年に関わる施策について

質問順14 14番 俵鋼太郎

3 (1) 市営プールの今後について

質問順18 26番 関野隆司

1 来年度の予算編成について

(2) 来年度の予算編成にどの様に臨まれ様としているのか。以下見解を伺う
ウ 市民の「いのち」や「暮らし」や「教育」等を守る施策を推進すべきと考える
が

質問順19 19番 堀村逸郎

2 心の健康事業の推進

(3) 児童・生徒や教師等に対する「心の健康」の理解とその対応策等について

質問順20 10番 小松久信

5 (1) 市内小学校洋式トイレの設置状況及び設置基準について

第11回城下町おだわらツデーマーチ開催結果

- 1 開催日 平成21年11月20日(金)・21日(土)・22日(日)
- 2 主会場 小田原城址公園銅門広場(スタート・ゴール)
湯河原中学校第2運動場(スタート) 箱根苑地(スタート)
南足柄小学校(スタート)
- 3 コース
11月20日(金) せっかくコース～白秋童謡コース～ 10km
11月21日(土) 尊徳・諏訪の原コース 30km 太閤一夜城コース 20km
小田原城総構コース 10km 文学・遺跡コース 6km
湯河原・真鶴コース 20km
11月22日(日) 国府津・曾我山コース 30km 曾我梅林コース 20km
飯泉観音コース 10km ファミリーコース 6km
箱根コース 20km

4 参加申込者数(登録者数)

申込時期別	事前申込		5,676人(昨年5,489人)					
	当日申込	11月21日	733人(昨年638人)					
		11月22日	262人(昨年200人)					
	合計		6,671人(昨年6,327人)					
男女別	男性		3,558人(昨年3,312人)					
	女性		3,108人(昨年3,015人)					
	不明		5人					
	合計		6,671人(昨年6,327人)					
一般・中学生以下別	一般		5,492人(昨年4,966人)					
	中学生以下		1,179人(昨年1,361人)					
	合計		6,671人(昨年6,327人)					
住所地別	小田原市内		2,739人(昨年3,001人)					
	小田原市外	県内	2,760人(昨年2,552人)					
		県外	1,163人(昨年774人)					
	不明		9人					
合計		6,671人(昨年6,327人)						
都道府県別	北海道	4人	青森県	4人	秋田県	2人	岩手県	11人
	山形県	4人	宮城県	6人	福島県	14人	新潟県	10人
	東京都	440人	群馬県	12人	栃木県	19人	茨城県	23人
	埼玉県	182人	千葉県	171人	神奈川県	5,499人	山梨県	4人
	静岡県	114人	長野県	12人	石川県	7人	岐阜県	3人
	愛知県	18人	三重県	2人	滋賀県	3人	京都府	8人
	大阪府	31人	奈良県	2人	兵庫県	12人	鳥取県	2人
	岡山県	8人	島根県	1人	広島県	4人	香川県	2人
	徳島県	1人	愛媛県	1人	福岡県	13人	佐賀県	2人
	長崎県	2人	熊本県	4人	宮崎県	2人	鹿児島県	3人
	不明	9人					合計	6,671人

5 参加者数(延人数)

コース	11月20日(金)	11月21日(土)	11月22日(日)	合計
せっかくコース	70人			70人
小田原コース		5,894人	4,819人	10,713人
湯河原・真鶴コース		535人		535人
箱根コース			869人	869人
合計	70人	6,429人	5,688人	12,187人

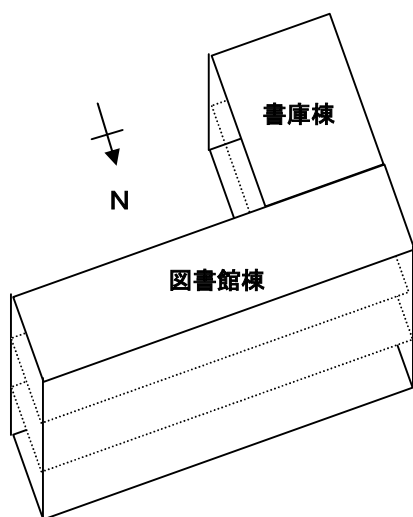
小田原市立図書館コンクリート強度耐力度調査の結果について

1 調査に至るまでの経緯

- 平成8年度に、神奈川県西部地震想定震度である震度6強レベルを想定し実施した耐震診断では、建物の一部において大破するとの結果が示された。
- この結果を受け、施設のガラス面すべてに飛散防止フィルムを施工したほか、漏電火災を防ぐため各配電盤への漏電遮断機の設置や、建物への荷重を軽減するため、書架の配置を変更するなどの対策を講じてきた。
- しかしながら、前回の診断から10年以上が経過しており、平成13年には既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準が改正されたこと等もあり、その後の経年劣化も予想されることから、現在の施設の状況を把握するため本調査を実施した。

2 調査結果の概要

- 市立図書館施設において、昭和34年に建設された図書館棟及び昭和46年に増築された書庫棟ごとに内壁の全15箇所のコンクリートをコア抜きし、採取した試験体コンクリート圧縮強度（注1）試験及び中性化（注2）試験を調査した。併せて、建物外周の不同沈下（注3）を測定するとともに、目視による内外部の亀裂調査を行った。



書 庫 棟	建設年	昭和46年
	構造	鉄筋コンクリート造
	階数	地上2階
	延床面積	678.14 m ²

図 書 館 棟	建設年	昭和34年
	構造	鉄筋コンクリート造
	階数	地上3階
	延床面積	1621.86 m ²

注1 コンクリート圧縮強度

供試体が耐えられる最大圧縮荷重を、圧縮力に垂直な供試体の断面積で除した値

注2 コンクリートの中性化

中性化とは、二酸化炭素によって生じる鉄筋コンクリートの劣化のひとつ。コンクリートは主成分がセメントであるため内部がアルカリ性であるが、外部からの炭酸ガスの侵入によって中性になると鋼材の耐腐食性が低下する。中性化によるコンクリート構造物の劣化、雨水等の浸入により、鉄筋の腐食が加速する。

注3 不同沈下

不同沈下地盤が均等に沈下（地盤沈下）せず、建物が傾斜している状態のこと。地盤が均等に沈下していれば、その上の建物は均一に沈下するため傾斜は発生しないが、地盤の一部だけが沈下すると建物は不揃いに沈下を起し、その結果として傾斜が発生する。

1) コンクリート圧縮強度調査結果

採取場所	コア圧縮強度平均値		コンクリート 基準強度(設計当時の基準)	(参考)コンクリート 基準強度(現在の基準)
	平成8年度調査	今回調査		
図書館棟 3F	22.8	18.5	13.5	24.0
図書館棟 2F	23.5	18.6		
図書館棟 1F	16.5	14.9		
書庫棟 2F	21.3	21.7	18.0	
書庫棟 1F	29.7	20.7		

単位：N/mm²

今回の調査では、コンクリート強度の各階平均値は平成8年度の耐震診断時と同様に、設計当時の基準値は上回っているが、現在の基準値に対しては下回る結果であった。

2) 中性化試験調査結果

採取場所	中性化深さ 階平均	中性化深さ 棟平均	経過年数に基づく推定値
図書館棟 3F	4.5	12.2	26.4
図書館棟 2F	13.4		
図書館棟 1F	17.0		
書庫棟 2F	6.1	5.5	23.0
書庫棟 1F	5.0		

単位：mm

昭和34年建設の図書館棟においては、経過年数50年による中性化の推定値は26.4mmであるのに対し、調査結果の平均は12.2mmであり、また、昭和46年建設の書庫棟においては、経過年数38年による中性化の推定値は23.0mmであるのに対し、調査結果の平均は5.5mmであった。

このことから、中性化の進行の度合いは遅く、鉄筋の腐食に及ぼす影響は少ないと考えられるとの結果であった。

3) 不同沈下測定による傾斜結果

杭基礎で支持されており、不同沈下は認められず、建物の傾斜も確認されなかったとの結果であった。

4) 目視による内外部の亀裂調査結果

各棟ともひび割れが確認されたほか、書庫棟においては南面の屋外階段の一部に鉄筋の露出が確認された。

これらのひび割れは、いずれも経年の劣化によるもので建物構造に影響のあるひび割れではないと考えられるが、鉄筋の露出部分については、錆を進行させてしまうことから早急に補修を行う必要があるとの結果であった。

5) 総括

平成8年度に実施した耐震診断と今回の調査とでは、サンプルの採取箇所や数が異なることから、直接の比較は出来ないものの、当時よりやや低い値が確認された。

このことから、各棟ともにコンクリート推定強度は、設計当時の基準強度を上回っている結果であったが、全体的には建物の強度の値は下がっているものと考えられる。

平成13年に「鉄筋コンクリート造建築物の耐震診断基準」が改定されていることから、現在の正確な I_s 値（注4）を測るには、改定後の基準に基づき耐震診断を実施する必要があるとの調査結果であった。

注4 I_s 値

I_s 値とは構造耐震指標といい、耐震診断において判断基準となる数値で、地震に強い構造かどうかを表す数値をいう。

平成21年度西湘地区教育委員会連合会研修視察

- 1 期 日 平成22年1月20日(水)
- 2 行 程 大型バス1台
- 7:25 小田原駅西口バスターミナル
小田原市・箱根町・真鶴町・湯河原町 集合
- 7:30 出発
- 8:15 足柄上地域県政総合センター(合同庁舎)玄関前
南足柄市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町 集合
- 8:20 出発
- 10:00~11:30 神奈川県青少年センター(施設見学・研修)
住所 横浜市西区紅葉ヶ丘9-1
- 11:30~12:50 昼食及び移動時間
- 13:00~15:30 神奈川県警察本部(施設見学・研修)
住所 横浜市中区海岸通2-4
13:00~14:15 県警本部庁舎見学
14:30~15:30 研修
- 17:00頃 足柄上地域県政総合センター(合同庁舎) 下車
- 17:40頃 小田原駅西口バスターミナル 下車

◎時間は予定時刻ですので、交通事情等により変更する場合があります。



小田原市教育委員会 様

要 望 書

小田原市教育委員会におかれましては、日ごろから、当和留沢地区を始め本市の子ども達のためにご尽力くださり誠にありがとうございます。

さて、現在本地区から久野小学校に通学する者は4名（1年、2年、3年、6年）おりますが、全員が自家用車を利用しています。

かつて、本地区にありました久野小学校明神分校を廃校（昭和40年）した際、市が公用車を購入し、市役所に勤務していた本地区住民（釣巻栄助 現自治会長）が、通勤途上に児童生徒を送迎していましたが、平成9年3月、釣巻栄助の定年退職によりこの送迎は終了となり、現在に至っています。

当時も「市長さんとの意見交換会」などの場では「通学費を補助して欲しい」との声があがっており、また、小田原市議会においても通学費の補助について取り上げていただいたと記憶しております。

通学距離については、度々「小学校4km、中学校6km」と聞きますが、本地区は和留沢公民館から久野小学校までが約5km、白山中学校までが約7kmと、この基準を大きく超えています。

そして、本地区からは実に2.5km以上も下り、やっと最寄りのバス停留所（和留沢入口バス停）に着きますが、こうした地域は、市内においても、他にはないものと考えます。

つきましては、こうした本地区の状況を十分考慮していただき、子ども達の通学費補助を新設して下さるようお願いいたします。

平成21年12月8日

小田原市久野4870番地136
和留沢自治会
会長 釣巻 栄助

資料6

小・中学校及び幼稚園における新型インフルエンザに伴う臨時休業の状況について

平成21年11月21日～12月15日

		校数／学級数	罹患患者
学級閉鎖	小学校	22校 / 71学級 (23校 / 184学級)	582人 (1,248人)
	中学校	7校 / 25学級 (10校 / 50学級)	190人 (341人)
	幼稚園	3園 / 4組 (3園 / 10組)	17人 (39人)
学年閉鎖	小学校	1校 / 1学年 (6校 / 8学年)	18人 (131人)
	中学校	2校 / 2学年 (6校 / 7学年)	34人 (129人)
	幼稚園	0園 (0園)	— (—)
学校閉鎖	小学校	0校 (0校)	— (—)
	中学校	0校 (1校)	0人 (39人)
	幼稚園	1園 (1園)	5人 (5人)

※ () 内の値は、平成21年9月1日から12月15日までの累計